

## 2003 年度 委員会活動成果報告

( 1 6 年 0 3 月 2 6 日作成 )

委員会名	住宅の地方性小委員会	主 査 名：森本信明
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：嘉納成男
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 4 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	風土性に基づく住宅の地方性の探求 都市レベルに基づく住宅の地方性の探求 地方自治体の住宅問題の把握と政策への提言を主目的として、各地における研究会開催、大会時における協議会準備、さらにほぼ 10 年毎の出版事業を行っている。2002 年度からはじまる小委員会では、第 3 次出版活動をこの期間の重要な活動目的としている。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：森本信明(近畿大学) 幹事：碓田 智子(庶務：福井大学) 久保 加津代(企画：大分大学) 田中 勝(庶務：山梨大学) 西島 芳子(企画・WG：高知大学) 長谷川 洋(庶務・企画調整：国土交通省) 藤田 忍(企画：大阪市立大学) 眞嶋 二郎(編集担当・WG：北海道大学) 吉田 友彦(HP 担当：筑波大学) 編集委員：鈴木 浩(福島大学) 中島 明子(和洋女子大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	自治体住宅政策WG 住教育WG	
2003 年度予算	7 0 , 0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	高知研究会平成 15 年 5 月 23 日～25 日(延べ参加者 40 名)名古屋大会前日研究会(田原町)ならびに見学会(延べ参加者 42 名)大会協議会「コラボレーションによる地域・住宅まちづくり」(延べ参加者 80 名)平成 16 年 3 月 22 日拡大編集委員会(大阪)6 名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本章委員会の定期的な活動であり、小委員会のメンバー以外にも幅広く参加をよびかけている春の研究会(高知)、学会時の研究会(田原町)を実施した。 さらに本年度は、2 年前の大会協議会「安定化社会に向けた地域のすまいづくりの展開」をふまえ、「コラボレーションによる地域住宅・まちづくり」の準備を行い、資料集の編集を藤田委員を中心に行い、当日も多くの参加者をうることができた。これらの成果をふまえ、約 10 年に 1 度のサイクルで行ってきている地方性小委員会メンバーが中心執筆となる出版活動が今回の小委員会の重要な目標となっている。2004 年 3 月に行われた編集委員会では、ほぼ執筆原稿の素案が集まり、「地域からのすまいづくり」というメインタイトルも固まり、いよいよ出版社との交渉ができる段階にまでこぎつけることができた。 なお、雑誌「住宅」2004/2 において、「地域住宅の検証と今後のあり方」が特集され、森本が「住宅の地域性について」を執筆し、小委員会活動を総括している。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 研究会開催、大会協議会準備、出版編集作業とともに、年度当初の計画をほぼ達成することができた。特に出版準備は、20 名を越える予定者にもかかわらず、若干の遅れがあるとはいえ、ほぼ編集の目処がたったことは十分に評価できる。ただし地方性小委員会通信は、年度内に 3 号を出す予定であったが、2 号までにとどまり、4 月発行に持ち越した。なお、後半 2 年間は主査を西島芳子(高知大学)に交代する予定である。
その他評価すべき事項	住宅の地方性小委員会は委員登録メンバー以外に 100 人近い通信の配布をインターネットを利用して、会員サービスとともに協議会資料作成、出版を中心とする研究活動を精力的に行っている。その折、インターネットを利用しての効率的な委員会運営が行われている。

--	--